多可高と那珂ふれあい館が連携

木棺の模型 作り直しへ

県内最大級の横穴式石室で知られる東山古墳群（多可町中区東山）に埋葬されていた木棺の模型を、隣接する多可高校と古墳群を管理する那珂ふれあい館が連携して作り直すことになった。２００５年度に同校生の協力を得て模型を作ったが、経年劣化で傷んだため、再びタッグを組んだ。（金井恒幸）

同町によると、県指定文化財の同古墳群は16基の円墳があり、古墳時代の終わりごろに造られた。石室の長さが10メートルを超える古墳が５基ある。多可・西脇地域を治めた豪族が造ったと推定される。

今回は１年生29人が参加。作り直す模型は、１号墳と15号墳に埋葬されていたもので、発泡スチロール板に色を塗り、接着剤でつなげる。模型の大きさは１号墳が縦１８０センチ、横58センチ、15号墳が縦１５３センチ、横45センチ。勾玉などの副葬品の模型も作る。

作業は16日に始まり、生徒は同古墳群の内部から木棺の模型を運び出し、現状を確認。同館の担当者らから、今後の流れを聞いた。生徒会長の笹倉舷太さん(16)は「新しい木棺の模型などを作ることで、見学者の方が古墳群を理解する助けになれば」と話す。

同古墳群の発掘調査にも関わった同館の安平勝利館長は「多可高校生には、東山古墳群の存在を再認識する機会にしてほしい」と期待する。作業は12月17日まで計5回実施し、完成後に古い模型と交換する。古墳内部の模型などの見学は、事前に同館☎０７９５・３２・０６８５へ。

東山古墳群 存在再認識する機会に



東山古墳群から木棺模型を運び出す多可高校の生徒＝多可町中区東山

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。